

精道村を襲った2度の大水害

室戸台風

昭和9年(1934)9月21日午前8時前後の1時間、^{むろと}室戸台風が関西地方を襲いました。台風の中心が神戸市東部と精道村付近を通過した時刻がちょうど大阪湾の満潮時と重なったため、暴風雨に加えて海浜部の^{たかしお}高潮による甚大な被害を受けました。

<室戸台風による精道村の被害状況>

死者3名、重傷者4名、家屋の流失21戸、全壊42戸、半壊106戸、床上浸水354戸、床下浸水222戸、流失船舶16艘

昭和13年(1938)7月5日に阪神地方を襲った水害で、全体で死者・行方不明者数は695名、被害家屋数は119,895戸に達する被害を出しました。阪神地方では、6月28日から断続的に降り続いていた雨が7月3日の夕方から激しくなり、7月5日午前には1時間当たりの最大雨量が60.8mmを記録する大豪雨となりました。

同日、精道村では芦屋川と宮川がいたるところで氾濫し、大洪水が起きました。さらに芦屋川では土石流が発生し、市街地を襲いました。

阪神大水害



月若橋を越える濁流 (昭和13年〔1938〕7月5日撮影)

<阪神大水害による精道村の被害状況>

死者3名、重傷者2名、家屋の流出14戸、全壊14戸、半壊111戸、床上土砂堆積156戸、床上浸水790戸、床下浸水1,458戸、橋の流出6か所、橋の損壊8か所、道路・堤防の破損決壊10か所

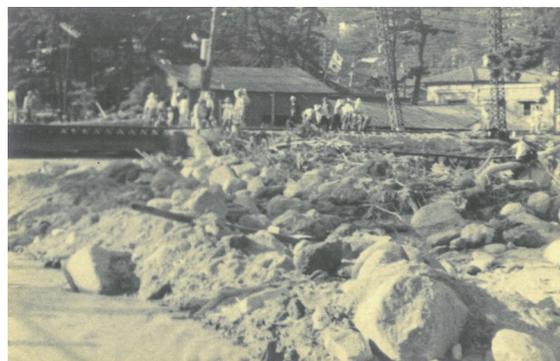
コラム

谷崎潤一郎が『細雪』に書いた阪神大水害

谷崎潤一郎は、小説『細雪』の中で阪神大水害の惨状を写実的に書いています。

「五日の明け方からは俄に沛然たる豪雨となつていつ止むとも見えぬ気色であった。(中略) 蘆屋川や高座川の上流の方で山崩れがあつたらしく、阪急線路の北側の橋のところ押し流されて来た家や、土砂や、岩石や、樹木が、後から後からと山のように積み重なってしまったので、流れが其処で堰き止められて、川の兩岸に氾濫したために、堤防の下の道路は濁流が渦を巻いていて、場所に依つては一丈ぐらいの深さに達し、二階から救いを求めている家も沢山あると云う。」

「阪急の蘆屋川駅なども、以前にあったフォームが土砂に埋没したので、土砂の山の上に仮のフォームを設け、橋の上に又高い橋を架けて、そこへ電車を走らせるような工事を始めた。その阪急の橋と、国道の業平橋に至る間は、川床が殆ど兩岸の道路の高さに持ち上がってしまったので僅かな雨にも氾濫する危険が感じられ、一日も捨てて置けないので、大勢の土工が幾日も幾日も土砂を掘り返していたが、蟻が砂糖の山を崩すようではなかなか埒が明かず、あたら堤防の松を砂煙で汚していた。」



阪急芦屋川駅付近の川底に溜まった石と土 (昭和13年〔1938〕撮影)

忍び寄る戦争の影

昭和初期の日本は、満州事変(昭和6年〔1931〕)や五・一五事件(昭和7年〔1932〕)、二・二六事件(昭和11年〔1936〕)が起こり、軍部が力を強めていきました。昭和8年(1933)には国際連盟を脱退し国際的に孤立を深めていく中、昭和12年(1937)には日中戦争に突入しました。日中戦争が長期化する中で、国民の生活は戦時体制に組み込まれていきました。精道村でも、村民が召集令状によって動員され、戦場へ送られました。昭和15年(1940)9月以降、砂糖やマッチ、家庭用燃料等が配給制となり、芦屋市となった昭和16年以降は米穀、小麦粉、鶏卵などの食料や生活必需品が配給制となっていきました。

芦屋市が発足した翌年の昭和16年(1941)12月8日に、日本は太平洋戦争を始めました。徴兵や経済統制など、戦時体制における市民の生活は苦しいものでした。昭和20年(1945)には芦屋市は四度の空襲を受け、市街地の約4割が焼け野原となって終戦を迎えることとなります。

芦屋市が発足した翌年の昭和16年(1941)12月8日に、日本は太平洋戦争を始めました。徴兵や経済統制など、戦時体制における市民の生活は苦しいものでした。昭和20年(1945)には芦屋市は四度の空襲を受け、市街地の約4割が焼け野原となって終戦を迎えることとなります。



六麓荘住宅地からみた観艦式の様子

(昭和11年〔1936〕10月29日撮影。市民提供)

昭和11年(1936)10月29日、神戸沖で日本海軍の軍艦100隻と航空機100機による大演習観艦式が行われた。写真には、大阪湾を航行する多数の軍艦が写っている。

芦屋公園での大日本国防婦人会と在郷軍人の共同訓練

(昭和12年〔1937〕頃撮影)

大日本国防婦人会は陸軍の援助のもと昭和7年(1932)に発足した婦人団体で、精道村には芦屋支部があった。白の割烹着にたすき掛けの姿が印象的で、出征兵士の見送りや遺族の慰問、防空訓練など、戦時体制に協力的な活動を行った。昭和17年(1942)には愛国婦人会、大日本連合婦人会と統合されて「大日本婦人会」となった。

在郷軍人とは、退役や予備役などの軍人。

